

近年、運輸行政、道路行政をはじめ、まちづくりの計画策定などの場面において、「モビリティ・マネジメント（Mobility Management：MM）」というキーワードを見聞きする機会が増えてきました。本連載では、10回にわたりこの「モビリティ・マネジメント」の基本的な考え方やその可能性について紹介します。

S E R I E S

シリーズ

公共交通活性化MM実践講座 第7回

モビリティ・マネジメントの 実践例④ NPO法人..なまら便利なバスマップ

松本 公洋 (まつもと とむひろ)

NPO法人交通まちづくりコンソーシアム
ゆうらん代表

交通まちづくりコンソーシアムゆうらん

当法人は、地球環境の世界的な課題として二酸化炭素の排出削減が叫ばれている中、公共交通の存在価値を高め、これまで以上に公共交通機関を利用してもらうことをミッションに、2004年に任意団体「交通倶楽部ゆうらん」としてスタートし、06年にNPO法人の認証を受け、09年に現名称に改称しました。「なまら便利なバスマップ」やメールマガジンの発行、環境と交通の講座、公共交通機関の利用促進に関する調査研究などを行っています。

なまら便利なバスマップ

「なまら便利なバスマップ」は、札幌市内のバス、地下鉄、市電、JRの各路線を一元化した公共交通路線図で、当法人が企画し06年3月から発行しています。

- 06年3月 初版1万部発行（札幌市委託事業）
- 7月 初版1万部増刷発行
- 06年11月 第4回企業とNPOの「パートナーシップ大賞」の「パートナーシップ賞」受賞
- 07年6月 第2版1万部発行（札幌市委託事業）
- 7月 えきバス・ナビ、なまら便利なバスマップ使い方講座
- 11月 札幌市公共交通おでかけ講座
- 08年6月 第3版1万部発行（財秋山生命科学振興財団助成、社北海道開発技術センター協力）
- 09年7月 「日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）」ポスターセッションにて発表。
- 8月 第4版1.5万部発行（財北海道環境財団）
- 12月 第5版2万部発行（財北海道環境財団）



バスマップ講座：マップの使い方や環境と交通について解説

1 マップの特徴

- ① 札幌市内のバス路線を事業者ごとに都心直行路線（1色の線）と地下鉄駅・JR駅接続路線（濃淡のある線）とに区分し、それぞれが分かるように表記した。
- ② 利用範囲の異なる各種プリペイドカードの利用範囲を一目で分かるようにした。
- ③ 普通の地図ではバス停を「●」1個で表現しているものが多いが、交差点など道路等の都合で停留所が大きく離れている箇所は、なるべく実態に合わせて表記した。
- ④ 親しみを持っていただけるように、主な施設・名所にイラストを入れた。
- ⑤ 駅のバリアフリー情報（エレベーター・身障者用トイレ・AEDの有無など）を記載した。
- ⑥ 色弱の方でも色が判別できるように、カラーユニバーサルデザインの認証を得た。（第3版から）
- ⑦ 画数の多い文字、数字の3や6のように、すき間の詰まっている文字などが見やすいとされるユニバーサルフォントを用いた。

2 マップの主な配布場所

大通駅定期券発売所／北海道中央バス市内各営業所／ジェイ・アール北海道バス市内各営業所／トラベルセンターアピア店／じょうてつバス／ばんけいバス／夕鉄バス／北海道さっぽろ観光案内所／札幌市各区民センター／北海道環境サポートセンター／道立市民活動促進センター／札幌市市民活動サポートセンター ※現在配布は行っていない。



図1 マップ表記の一例

(②は利用範囲の境界に記載、⑤は裏面掲載につき割愛、⑥⑦は全誌面に適用)

3 マップの効果測定

08年6月発行の第3版で行った誌面アンケート調査結果では、マップを手にしてからのバス利用に関して、約半数の方が「路線バスの利用が増えたと思う」と回答、一定の効果がうかがえるものとなっています。

路線バスの利用頻度とバスマップを手にしてからバスの利用頻度は変わったか

| | バスマップを手にしてからバスの利用頻度は変わったか | | | | 合計 | |
|-----------|---------------------------|--------|-----------|--------|-----|----|
| | とても増えた | 少しは増えた | ほとんど変わらない | とても減った | | |
| 路線バスの利用頻度 | ほぼ毎日 | 5 | 5 | 8 | 0 | 18 |
| | 週に3～4日 | 3 | 5 | 5 | 1 | 14 |
| | 週に1～2日 | 5 | 8 | 11 | 0 | 24 |
| | 月に数日 | 1 | 14 | 16 | 0 | 31 |
| | 年に数日 | 0 | 8 | 12 | 0 | 20 |
| | 全く利用しない | 0 | 0 | 7 | 0 | 7 |
| 合計 | 14 | 40 | 59 | 1 | 114 | |

図2 バスマップを手にしてからのバス利用頻度変化

*

例年、転入者の多い春先から夏にかけてマップの入手方法について多数の問合せがあることから、紙媒体での情報提供を必要とする一定の層がいると考えられます。

このマップの発行財源は非常に不安定なものとなっており、今後の定期的な発行継続が課題です。

全国には、仙台市、福井市、和歌山市、岡山市、広島市、松江市、那覇市等に公共交通の支援を試みるNPOがバスマップ等を発行しており、今夏、共著により『バスマップの底力』（株クラッセ）を発行しました。

また、当法人は、他の団体と協力し、移動制約者の利便性向上を目的に、交通バリアフリーに関わる取り組みを行っているほか、過疎地の移動をカバーできるシステムとして、スイスなどにある貨客混載事例（通称：ポストバス）に着目し、このような仕組みを北海道にも導入できないか提言しています。



ポスターセッション：マップの内容や効果を説明